

令和3年度 東京都小学校学校行事研究会

研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

よりよい社会を自ら築く力を育てる学校行事の創造
～「仲間」「本物」「感動」そして「共生」～

2 主題設定の理由

令和2年度は、前年度末からの突然のコロナ禍により、学校教育も多大な影響を受けた。とりわけ学校行事は、感染予防と授業時数確保の観点などから、中止や延期、規模の縮小、実施方法の工夫を余儀なくされた。しかし、こうした困難な状況においても各学校が学校行事の重要性を再確認し、それぞれの行事のねらいに迫ろうと様々な工夫をしながら実施し、子どもたちがそれぞれの行事のよさに少しでも触れられるようにと努力したことが様々な方面から伝わってきており、本研究会の昨年度の研究集録にもいくつもの実践報告が寄せられた。

本研究会では、現行学習指導要領が告示された平成29年度にこの研究主題を設定し、研究を重ねてきた。令和3年度もコロナ禍は収束の見通しが立たず、従来通りの学校行事の実施が困難な状況が続く中、コロナ対応に特化した研究内容にしようと研究主題改定の声もあがった。しかし、ウィズ・コロナの学校行事、アフター・コロナの学校行事を実践していく上で私たちが常に大切にしていきたい考え方として、今年度も本研究主題を継続して掲げ研究を進めていくこととした。

学校行事は全校又は全学年の児童が行う活動であり、その時間や空間のダイナミックさから大きな感動につなげることができる。仲間と役割を分担し、自ら責任を果たしながら目標に向かって努力するからこそ当日の特別な思いに至ることができる。そして、振り返りを通して自分のよさや友達のよさに気付き、互いを認め合い尊重する集団へと育っていく。また、事前・事後の活動も含めて、集団の中で互いに支え合い、役に立つ喜びや所属する安心感を味わうことを通して自己有用感や自己効力感を高めていくことができ、それが自尊感情の向上にもつながる。

本会では、「よりよい社会を自ら築く力」を、「集団による体験活動を通して、周囲の人や社会に関心をもち、他者と関わり合ってよりよく生きようとする意識や態度」「未来に生きる社会を創り、その社会を運営しつつ、その社会を時代の変化とともに絶えず創り変えていくために必要な資質・能力」と捉えた。各学校で行われている学校行事が「主体的・対話的で深い学び」を実現しようとしているかを押さえ、形骸化しがちな内容や運営方法、指導方法を見直し、特別活動全体のつながりの中で創り上げられる学校行事本来の役割と有効性を提唱し、子どもたちによりよい社会を築きそこに生きるための汎用的な能力を育みたいと考え、本研究主題を設定する。